

肺がんの分類

肺がんを大きく分けると小細胞がんと非小細胞がんの2つになります。

●小細胞肺がん

肺がんの約15～20%を占め、増殖が速く、脳や肝臓、リンパ節、骨などに転移しやすく、一般的には進行の早いがんと言われております。

●非小細胞肺がん

小細胞がん以外の肺がんの総称で、肺がんの約80～85%を占めています。腺がん、扁平上皮がん、大細胞がんなど、多くの異なる組織型があり、発生しやすい部位、進行速度や症状などはそれぞれ異なります。

〈肺がんの分類〉

	組織分類	多く発生する場所	特徴
非小細胞肺がん	腺がん	肺野部	女性に多い 症状が出にくい
	扁平上皮がん	肺門部	喫煙との関連が大
	大細胞がん	肺野部	増殖が速い
小細胞肺がん	小細胞がん	肺門部	喫煙との関連が大 転移しやすい

がんの種類や進行度、また患者さんの状態により、外科治療、化学療法、放射線治療を単独、もしくは組み合わせるなどした治療が行われています。特に非小細胞

がんでは、分子標的薬、がん免疫療法といった新しい薬の開発が目覚ましく、治療が進歩してきています。

症状

肺がんの一般的な症状としては、長引く咳、血痰、胸痛、呼吸時の喘鳴、息切れ、声のかれなどがありますが、これらは必ずしも肺がんに限った症状ではありません。また、肺がんは進行の程度にかかわらずこうした症状がほとんどない場合が多く、肺がん検診として受けた

胸部X線検査やCT検査によって発見される場合もあります。

肺がんの一般的な症状は他の呼吸器疾患の症状と区別がつかないことが多いため、気になる症状があれば医療機関を受診することをお勧めします。

検査

肺がんが疑われるときにはまず胸部X線検査やCT検査、血液検査などを行い、その後、喀痰細胞診や気管支内視鏡検査、経皮的肺生検、胸水の検査などを行って肺がんの細胞や組織を採取し診断を確定します。

また、他臓器への遠隔転移の有無を調べるために、脳のMRI検査や腹部CT、超音波検査、骨シンチグラフィ、PET-CT検査を行います。

最後に

日本人が生涯のうちにがんに罹るのは2人に1人といわれています。がんはそれほど身近な病気になっているのです。有効な治療法や治療薬の開発などによりがん医療は日々進歩しています。早期

発見し、早期治療すれば完治するケースも多く、禁煙など生活習慣の見直しにより予防も可能になってきました。早期発見・早期治療のために肺がん検診を受けましょう。